

実験の楽しさ体験

静岡理工科大で

小学生ら60人

子どもたちが科学実験にチャレンジする「お理工塾」が、袋井市豊沢の静岡理工科大であり、小学三〜五年生約六十人が参加した。

三年生は「ものの温まり方と冷え方」、四年生は「電磁石」、五年生は「燃えるとは？」のテーマでそれぞれ実験。同大理工学部の「お理工塾応援隊」の学生らが指導した。

五年生は、割り箸とスチールウール(金属繊維)、アルミホイルをろうそくの火で燃やし、質量がどのように変化するかを確かめた。燃やす前と比べて、割り箸は軽くなる一方、スチールウールは重さが増す結果になり、学生の指導でその理由と燃焼の仕組みを学んだ。

応援隊長の須田大成さん(三)は「物質生命学科三年」は「なぜだろ

う」と思っていたことが実験で分かると、子どもたちの顔がぱっと明るくなる。問題を解決する楽しさを知ってもらいたい」と話した。



大学生の指導を受けて実験する児童ら(袋井市の静岡理工科大で)